

## 進捗状況の概要

平成 27 年度は、高大連携教室の運営を軸として事業を進めてきた。以下、その概要を示す。

### 1. 高大連携教室

IGS 前期プログラムとして、高校 2 年生を対象とした高大連携教室を 3 回（8 月 4～5 日、12 月 26～28 日、3 月 28～29 日）開催した。実施担当は、大学教育センターの教員 3 名、事務補佐員 1 名が主となり、学内教員 6 名（および外部講師 2 名）、本学学生 63 名の協力を得た。生徒募集は、平成 27 年度から全国の SSH 校や本学志望生徒数の多い高校などに向けた案内書類の郵送、主に関東近県の高校を訪問しての案内、本プログラムウェブサイトでの告知を行い、全国公募の後、応募書類により選考を行った。3 回の開催に対してのべ 64 名（2 回参加 5 名、3 回参加 2 名）の高校 2 年生が参加した。これら高校生の参加者所属高校は合計 49 校であり、沖縄県、福岡県、奈良県、愛知県、福島県、新潟県など関東地方以外からの参加もみられた。波及効果として、学内教員に対しては高校～学部初年次対象の科学教育における教材・教育法の開発促進、本学学生に対しては高校生対象のプログラムの中で高校生に助言や説明を行う機会をもつことによる意識の向上をもたらした。

参加した高校生を対象としたアンケートから、高大連携教室の課題として、高大連携教室の実施の時期による高校生の学習進捗度合いと連携教室の内容の難易度や到達目標のレベル、参加生徒の本学志望度の時期的・地域的な差異がみられている。しかし確定的な結果を得るには至っておらず、今後行われる連携教室でも継続して調査する。

### 2. 学習履歴記録システム（ポートフォリオ）

本プログラム受講者が増加する中、更新履歴一覧機能を追加し、生徒（学生）の記述に対して迅速に返信をできるように整備した。このシステムを使用し、高大連携教室参加者の学習成果の記録や高大連携教室の事前課題の提出、それに対する本学教員からの返信や参加者への配布物の送付、参加者に対する事前アンケートなどを実施した。

### 3. 評価基準表（ルーブリック）

理系グローバル人材の評価基準表（ルーブリック）は、連携教室での高校生に対する指導の基準とした。これは、前述のポートフォリオを通じた指導（教員からの返信）においても同様である。さらに、高大連携教室に参加・協力する本学学部生・大学院生に対しては、これを用いて、高校生から大学院生の各ステップに求められる到達目標を提示して事前指導した。

### 4. 高大連携協議会・外部評価委員会

高大連携協議会は 7 月 23 日と 12 月 15 日、外部評価委員会は 3 月 22 日に実施した。高大連携協議会は高大連携教室実施前に設定し、本プログラムの進捗状況の報告を行い、その後に予定される高大連携教室の準備に関して委員（高校教員）からの意見を重視した。例えば、各教室の実施時期における高校生の学習進捗状況や各時期における学校行事日程などであり、高大連携教室はこれを受けて実施している。外部評価委員会では、とくに、翌年度への事業展開の展望について意見を得た。

### 5. IGS 後期プログラム

農学部 1 年次生全員対象の農学部基礎ゼミで、「考える科学実験～科学実験の記述法～」および『理系大学生』のためのキャリアプランニング入門の 2 科目を開講した。工学部においては、「工学基礎実験」をもとに初年次教育を進めた。平成 26 年度末の高大連携教室に参加した生徒のうち本学の入学者に対して、同教室の効果、受験や入学後の学習などに関する意識の聞き取り調査を行った。

### 6. その他

高校の女子生徒と保護者を対象に、「キャリア講演会・サイエンスカフェ」を開催し、本学の女性研究者と本学大学院を修了し理系企業に勤める女性による講演、懇談会を行った。本学学園祭、学会、本学発行の「大学教育ジャーナル」の活用、ウェブサイトの構築により広報や成果発信を行った。